

岩手県ユニセフ協会設立 20 周年記念事業 報告

安田菜津紀さん講演会 2021 年 3 月 27 日 (土)

於 岩手教育会館 190 人参加
(コロナ対策で、収容人数の半数)

1、記念式典 岩手県ユニセフ協会 東根会長あいさつ
日本ユニセフ協会 早水専務ごあいさつ
岩手県ユニセフ協会 20 年のあゆみ DVD 上映

2、記念イベント 岩手県立不来方高校音楽部の合唱
募金贈呈式

～声楽アンサンブルコンテスト全国大会 3 位の賞金 10 万円贈呈～



3、安田菜津紀さん講演会

「世界の子どもたちと向き合って」 ～シリア難民の子どもたちと東日本大震災～



「フォトジャーナリスト」という仕事に就いた経緯、シリアの国民の半数が避難している現状、内戦が始まる前のシリアが美しく観光客の多い国だったこと、シリアの子どもたちの「私たちは何も悪いことをしていないのに」という言葉、日本での難民の受け入れが 0, 4%であることなど、海の向こうだけの話ではないことを写真を交えて話されました。

シリアの内戦と東日本大震災が奇しくも同じ 2011 年 3 月に起こったこと、ご自身と陸前高田市とのつながり、不来方高校が編曲して歌ってくれた「心の鼓動」(シリア内戦下の子どもたちの思いが込められた歌)の歌詞にある「気づいて」という言葉の重さについて、自らが被災して「恩返し」ではなく「恩送り」をするという陸前高田市の方々、どれをとっても「人ごと」にしないで世界にも身近にも目を向けようという、ぶれない気持ちが伝わりました。何か支援をしようと思うときはユニセフなどの団体に募金することが、コロナ禍でも確実に届くという力強いメッセージをいただきました。



4、閉会後のサイン会と募金活動



会場で販売した安田さんの書籍

『写真で伝える仕事』

『故郷の味は海をこえて』

『それでも、海へ』

のサイン会。用意した書籍は、
完売しました。

ロビーでは、不来方高校音楽部の
みなさんが募金箱を持ち、
静かに募金活動をしてくれました。

募金額 50,474 円でした。

～寄せられたアンケートより～

普段知ることのない話をしてくださったおかげで、遠い所で起こっているように感じていたシリアでの問題が近くに思えました。僕は将来、他言語を使って世界で働きたいと思っていますが、これまでの僕の知っていた世界はまだまだ狭すぎたように感じました。世界で何が起きているか勉強していきたいと思います。



子どもの表情＝社会、岩手県民の 10 倍の避難生活者。有名人は殺されにくい、一般人は被害にあう。自分の知識の甘さを実感した。自分の知識がどれだけ薄く、報じられている情報はどれだけ狭い視点なのかを知った。「難民」「被災者」とくくるのではなく、一人ひとりが苦しんでいるという認識を持つことができた。

ニュースでしか知らないシリアという国、そこに住む人々はたくさんの困難に直面していること。遠い話という感覚が今日の講演でがらりと変わり、私の中に大きな問題として認識させられました。



- ・ 不来方高校音楽部の合唱、とても心に沁みて涙が出ました。(多数)
- ・ 不来方高校、全国 3 位、おめでとうございます。
- ・ 「心の鼓動」を胸に刻み、新しい春を迎えます。
- ・ 不来方高校の歌声にはいつも涙が出ます。
ありがとう。
- ・ きれいな歌声が心の中を浄化させてくれました。
歌の力ってすばらしい。